

# 付録（活動紹介）

## 【帯広会場】 11月27日(金)開催 参加者数15名



### 森と遊ぶ会やっほー 戸川 久美子 氏

交付金は、森林空間利用タイプ、地域環境保全タイプ、教育・研修活動タイプを利用。親子アートキャンプ、木製のモノづくり、森林散策・管理体験などのワークショップ、森づくり指導、森林環境プログラム講習会、ツリーイング体験会、火おこし体験、木のカタラーの草木染めなどを実施。交付金は木育活動のきっかけになった。のこぎりを握ったことがない大人が道具を使う楽しみを感じてくれたり、市街地の人に森に興味をもってもらうことができた。



### 達美の森倶楽部 中村 修一 氏

帯広市と幕別町の境の「ピンネの森」という自然林で、以前から荒れた人工林の森林整備と林業体験などを行っていた。交付金は、地域環境保全タイプと教育・研修活動タイプを利用。「十勝植物の会」と共催で植物観察会、「むずびば十勝」と共催で福島の子どもの保養と自然体験、木育マイスター研修会、森のイキモノ調査、歩道の整備、子どもたちの林業体験などを実施。森と親しむ機会を提供でき、生物多様性や林業について知ってもらうことができた。



### 十勝の森とひとを結ぶ会 千嶋 夏子 氏

帯広市の保全林に指定されている、上清川町河畔林と富士町湿性林で、野鳥の会のメンバーが中心になって活動している。教育・研修活動タイプの交付金を活用して活動した。植物、鳥、動物の専門家を講師に、野草、絶滅危惧種、野鳥の観察など、自然観察会を実施。参加者の年齢層は20～70才。今後は子どもにも参加してもらえるようなプログラムを考えたい。

### 情報交換会

- ・今回の参加者のみなさんは他の方の活動を知っていますか？この機会にぜひ、地域で活動する方同士の新しいつながりをつくってほしい。
- ・けが、火傷など安全対策はどうしているのか知りたい。事故が起きた団体はその後どうなったのか。保険のことではなく、事故の後始末、対応、周囲の反応などについて聞きたい。情報があったら教えてほしい。
- ・人を結びつけるのが上手なNPO等がハブとなって、地域で活動する方同士の新しいつながり、ネットワークをつくれぬか。地域の活動者がうまく関われる仕組みがほしい。

### 質問

- Q.事業で整備できる場所に制限はあるのか。  
A.放置森林の整備等、国の補助金の対象基準に満たない場所の間伐等、素人でもできる取組み等に活用できる。
- Q.交付金の使い道として、どんな特徴があるのか  
A.交付金の目的はボランティア活動の支援で、活動した人に対価を払うことができるという特徴がある。苗木の購入費は2分の1まで。



帯広会場 情報交換会

## 【旭川会場】 12月1日(火)開催 参加者数26名



### かみかわ里山ネット

清水 省吾 氏

5人の山主が、景観重視、植生復元、歩道づくりなど目的の異なるそれぞれの山林活動を行っている。地域環境保全タイプと森林資源利用タイプの交付金を利用。GPSで境界を見つける調査、笹刈り、危険木除去、作業道づくり、森の広場づくり、作業小屋づくりなど、それぞれのデザインで展開。森の手入れに日当がでるのがありがたい。森づくりのモチベーションもあがり、素人ではできない作業の時は、プロに委託して謝金に利用できる。



### ナイオロップ森林保全の会

みまき さちこ 氏

北海道に移住して来た方と、企業所有の「マンナネの森」で、地域環境保全タイプと森林資源利用タイプの交付金を利用して活動している。クマザサ茶の生産に取組み、授産施設に笹の葉と茎の仕分け作業を委託している。オニグルミ、ミズナラなどの樹を使った草木染めも行った。冬期は伐採作業をし3月に玉切りを予定している。山は自然への畏敬の思いをもたらす。メンバーは自然に生かされているという実感を得ることができて、生態系のバランスをどう守っていくかということも考えている。

#### 情報交換会・質問

- ・ 交付金の目的はボランティア活動の支援。活動に対価を払うことができるという特徴がある。木工旋盤など森の外で使うものは認められない。新割り機械などは購入可能。苗木の購入費は2分の1まで。
- ・ 白老町はなぜ町民を多く集めることができるのか。活動の地域や場所を多く取り上げているのも素晴らしい…たまたま林業に情熱がある人がメンバーにいた。NPOが母体となった前段の活動実績もあった。

## 【北見会場】 12月2日(水)開催 参加者数32名



### NPO法人たんのかたくりと森の会

大橋 秀規 氏

地域環境保全タイプの交付金を活用。当会が所有する、カタクリ群落の周辺の森林保全活動として、荒廃したカラマツ林を落葉広葉樹に転換する取組み、繁茂しているツル植物の除去や、林道づくりのための伐採作業などを行っている。来年は除間伐をしたい。カタクリの群生地は文化財に指定され市有地だが、まわりが民有林のため観察会でしか見ることができない。端野のカタクリは道東部の分布限界にあり、非常に厳しい状況で生きている。個体群動態調査、増殖実験、花粉媒介昆虫の調査、受粉実験などを行った。カタクリは昆虫媒介による他殖型(自家不和合性)と言われているが、端野では、袋がけ実験の結果、自らの花粉で受精果実を得る「自家和合性」を獲得していることがわかった。

#### 情報交換会・質問

- ・ 市町村、森林組合が事務局を担っている団体は、きちんと交付金制度を活用している。交付金活用のノウハウがない団体もあるので、自治体等が積極的にきっかけづくりや指導を行ってほしい。
- ・ イベントの参加費用は徴収してもいい。高額になると交付金の意味が問われる。交付金により割引というようなことをはっきりさせていれば問題ない。

## 【旭川・北見両会場】



### 白老町の森づくりの会

(萩の里自然公園管理運営協議会森づくりの会など)

辻 昌秀 氏

濱田 満 氏



白老町では交付金を活用して7団体が活動を行っている。うち5団体が市街地に近いカラマツなどの人工林で活動中。萩の里公園では3つの交付金を活用。小学生を対象にした自然学習や安全講習、脇芽更新の状況調査、シカの被害防止柵設置、炭焼き・薪割り、管理道路の整備などを実施。広葉樹の伐採、集材(チップ材として地元工場に出荷)の仕事を生み出した。ウヨロ森づくりの会では、個人所有の森の手入れと子ども向けの森の体験学習、シカ除け防止柵の設置、ログハウス研修会などを開催。平成25～26年度のべ182人で日当計114万円の仕事となった。白老町には企業等が所有する森林が多く、一般民有林は少ない。状況を自治体が把握する事が大事だし、行政が関与してくれないとなかなか実践につながらない。森づくり参加者のほとんどが素人なので、安全に配慮した装備などの指導も実施している。